

**授業概要**

子どもの身体を理解するためには、学生自身の身体を理解することが必要である。学生自身が身体を通じた表現を経験する事で、自由発想やイメージによる自己表現を体験し、表現者としての自己成長及び、他者の表現を認め合う姿勢を養う。保育者として子どもの表現活動を指導・援助できる能力を養うことを目的とし、授業を展開していく。

また、舞台発表会での演技や運動会でのダンスを創作し指導できるように、実践的な授業を行う。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション、子どもの生活と身体表現	< 講義 >
第 2 回	基本ステップ	
第 3 回	基本ステップ	ステップの組合せと空間構成
第 4 回	基本ステップ	創作
第 5 回	基本ステップ	作品発表
第 6 回	表現あそび	道具
第 7 回	表現あそび	模倣、オノマトペ
第 8 回	表現あそび	絵本、ことば
第 9 回	舞台発表会の演目を創作する	導入
第 10 回	実技テスト	
第 11 回	舞台発表会の演目を創作する	創作
第 12 回	舞台発表会の演目を創作する	展開
第 13 回	舞台発表会の演目を創作する	中間発表
第 14 回	舞台発表会の演目を創作する	まとめ
第 15 回	舞台発表会	
第 16 回	舞台発表会の振り返り、レポート提出	

**到達目標**

- ・学生自身も表現者として「感じて・考えて・行動する」力を養う。
- ・身体表現活動を通して他者との関わり方を学び、共同で創造的活動を行う理論と実践力を身につける。
- ・子どもの豊かな身体表現を導くための技術を習得し、適切な援助・指導ができるようになる。
- ・幼児期の発達特性と身体性、表現活動の関係について理解し、生活の中にある様々な表現の契機を捉える力を獲得する。
- ・子どもの表現を理解し、共感できる感性を高める。

**履修上の注意**

- ・講義の指定がある時以外は実技である。運動をするのに望ましい服装・身だしなみで受講すること。室内用の運動靴を履くこと。
- ・遅刻は、やむを得ない場合 20 分以内で認めることがある。それ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席 1 回と同様の扱いをする。
- ・講義、実技を問わず筆記用具を持参すること。また、ノートを用意すること。（ノート提出有）

**予習復習**

予習：シラバスを確認し、自身の生活や子どもの生活を観察しイメージを膨らます。  
 復習：授業内容をノートにまとめる。

**評価方法**

授業内課題、創作作品への取り組み、授業態度等の平常点 50%。実技テスト 30%。レポート 20%

**テキスト**

文部科学省『幼稚園教育要領』  
 プリントを配布する。

【参考文献】

平田智久・小林紀子・砂上史子編『最新保育講座 11 保育内容「表現」』、ミネルヴァ書房、2010年